

クラス	TU301	担当教員	赤石 憲昭
テーマ	「子ども哲学」から考える人間と教育		
著書・論文	「希望はテロ」の背後にあるもの：秋葉原事件の承認論的考察 『リブレーザ』第7号、社会評論社、2008年 「丸山真男の民主主義論の再検討：日本の民主主義の危機的状況の理解と打開のために」 『危機に対峙する思考』梓出版社、旬報社、2016年 「現代日本における承認問題—ホネットの承認論とその展開—」 『社会文化研究』20号、晃洋書房、2018年 研究課題：「人間のあるべき姿」の探求（ヘーゲル哲学、批判的社会理論）		
研究課題等			
ゼミナール概要			
キーワード：子ども、哲学、教育、対話、思考			
<p>【目的】</p> <p>近年、日本でも注目され始めている「こども哲学」を一つの主要テーマとし、これに関わる文献や実践を検討しながら、①子ども、および、子どもの教育についての理解を深めるとともに、②人間や社会についての再検討、さらには、③みなさんの哲学的思考力を高めることを目的とします。</p> <p>【内容】</p> <p>子どもと哲学に関わる以下のような文献や映像資料を検討します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河野哲也『「子ども哲学」で対話力と思考力を育てる』河出ブックス、2014年 ・河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せる：こどもを育てる哲学レッスン』河出書房新社、2018年 ・杉田正樹『ぼくたち、なんで生きているんだろう：実況「子どもの哲学教室」』電波社、2018年 ・中島さおり『てつがくする子どもたち：バカロレアの国フランスの教育事情』河出書房新社、2016年 ・永井均『子どものための哲学対話』講談社文庫、2009年 ・リヒテルズ直子『てつがくおしゃべりカード』ほんの木、2017年 ・『ちいさな哲学者たち』アミューズソフトエンタテインメント、2012年（DVD） <p>【授業計画】</p> <p>3年次</p> <p>上記の文献や資料を検討しながら、子どもと哲学に関する理解を深めるとともに、卒業論文作成に必要な本の読み方やそのまとめ方、議論の仕方等も身につけます。</p> <p>4年次</p> <p>3年次の活動を基礎として、各々が自分の研究したいテーマを掘り下げて、卒業論文を作成します。各自が自由にテーマを選び、研究を進め、途中経過を発表し、卒業論文完成を目指します。こちらから内容を指定することはありません。必ずしも上記テーマに合わせる必要もありません。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<ul style="list-style-type: none"> ・本ゼミでも視聴する『ちいさな哲学者』では、フランスの幼稚園児が活発な議論を展開しています。「きちんと自分で考えるには？」「きちんと対話・議論するには？」という内容を扱うゼミですので、ただ受け身的に時間を過ごそうという人の受講はお薦めしません。 ・ゼミ選択は、テーマの一致もさることながら、担当教員との相性もあると思います。担当教員の授業をすでにいくつか受けたことのある人や、担当教員のように「品のある人」を歓迎します。 			